

## プラスチックの利用削減、循環利用の推進

NTTグループでは、プラスチックの利用削減、循環利用の推進にも取り組んでいます。例えば、支線カバーや接続端子函カバーなどのプラスチック製の一部の通信設備は、廃棄された同種のカバーから再生したプラスチックで新品を作る、クローズドリサイクルを実現しています。また、ONU や HGW などの光回線の接続でお客さま宅で使用される装置の梱包用プラスチックを廃止する取り組みを進めています。

## 携帯電話のリサイクルプロセス

携帯電話には、金、銀、銅、パラジウムなどが含まれており、鉱物資源の少ない日本にとっては貴重なリサイクル資源といえます。そこで、NTTドコモは1998年度から、全国約2,300店舗のドコモショップや各種イベントなどで、お客さまから使用済み携帯電話の回収を行っています。2019年度は約387万台<sup>※</sup>の携帯電話を回収し、累計では1億1,523万台に達しました。

2011年度には、携帯電話に使用されるプラスチックを熱分解して燃料用油を生成するとともに、油化処理後の残さから金、銀、銅などを回収するという、新しいリサイクルプロセスを導入しました。

引き続きリサイクルの取り組みを継続し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

※ 2015年度からはリユースを目的とした回収台数を含んでいます。

## 有害廃棄物の取り扱い

NTTグループの事業から発生する有害廃棄物は、中継局の工事などで発生する廃棄物に含まれる廃石綿、PCB含有トランス・コンデンサなどの廃棄物、鉛バッテリーが該当します。これらは廃棄物の処理および清掃に関する法律（廃掃法）などの法令を遵守し、適切に処理されており、国外への排出実績はありません。PCB使用機器やPCB汚染物についても、PCB特別措置法に則り、適正な保管・管理を徹底するとともに、安全かつ適正な処理を行っています。

## 水の管理

NTTグループの事業形態として、事業で水資源を消費することはほとんどありません。日本国内で1年間に消費される水使用量<sup>※</sup>259億m<sup>3</sup>（生活用水+工業用水）に対し、NTTグループによる取水量583.4万m<sup>3</sup>は約0.03%未満で、日本全国に分散して使用しているため、取水により著しい影響を受ける水源はないと考えています。

また、NTTグループは、中水や雨水を使用することで、上水の使用量を削減しています。

化学物質を用いた研究活動を実施している研究機関では、個別に排水処理施設の設置や化学物質漏えい防止対策などを実施しています。例えば、物性材料研究を行っている厚木研究開発センタにおいては、実験室から排出される薬品混入廃液を浄化処理する廃液処理施設を設置しています。また、これら処理排水が法規制値以下の水質となっていることを、定期的に水質監視して確認しています。

なお、NTTグループでの重大な漏出の実績はありません。

※ 国土交通省Webサイトによる。平成27年の水使用実績（取水量ベース）は約799億m<sup>3</sup>/年（生活用水約148億m<sup>3</sup>、工業用水約111億m<sup>3</sup>、農業用水約540億m<sup>3</sup>）

## 紙の管理とリサイクル

NTTグループ全体での2019年度の紙の使用量は3.2万トンで、このうちの7割以上を占める電話帳については、1999年以降、回収した古い電話帳を電話帳用紙に再生して新しい電話帳に利用する「クローズドループリサイクル」を確立しています。また、純正パルプの使用量についても数値管理を行っています。

また、インターネットビリングサービス<sup>※</sup>などのICT活用によって、社会全体の紙使用量の削減にも取り組んでいます。

※ ご利用料金や状況をいつでもインターネットで確認できるサービス